
[平成26年度]

学園の事業計画概要

学校法人 **文京学園**

I 平成26年度事業計画概要

I. はじめに

昨年度は、我が国の社会情勢はあらゆる面で変化の激しい年となりました。国際情勢では、隣国である中国・韓国と、尖閣諸島・竹島問題などの問題をはじめとした高い緊張関係が継続しており、最友好国である米国との関係も従来とは異なった対応が垣間見られます。一方、国内では、7月の参議院選で自公両党が圧倒的な支持を受けて過半数の議席を確保し、大きな政局の変化「ねじれ解消」をみました。10月には、これまで、長い間懸案事項であった「消費税」が8%に引き上げられることが決定されました。また6月には「富士山（山梨県、静岡県）」がユネスコの世界文化遺産登録に決定されたことに続き、9月には2020年夏季五輪・パラリンピックの開催地が東京に決まるなど、国民全体で喜びを実感できる嬉しい出来事もありました。正に、我が国は、「東日本大震災からの復興」という大きな命題を背負いつつも、大きな時代の変化に直面しているような感さえ窺えます。

このような中、平成25年度において、理事会が学園創立95周年を見据えた方向性を示すとともに、これを受けた法人事務局・各キャンパス教職員が様々な具体的取組に果敢な挑戦を行い、大きな実績を残すことができました。主な取り組みとして、次の事項が挙げられます。

〈法人〉 ・90周年記念整備事業における、新S館建設（2月竣工）

〈大学〉 ・大学基準協会自己点検受審対応完了～「承認」公表済

・5月「国立高雄餐旅大学」と交流協定締結

・7月「日本医科大学」と連携協力協定締結

・8月「看護学科」の開設認可取得

・9月「新・文明の旅」ブルガリア交流プログラム実施

・GCI海外インターンシップ（タイ、マレーシア、フィリピン、中国）実施

〈中学高校〉

○中高校改革プロジェクト案策定、新しい中高校女子教育構想（新構想）策定

○「SSH（Super Science High school）」、「コアSSH」関連の主な活動、

・つくばサイエンスエッジ参加 日本語ポスターセッション 1位獲得

・プリンセス・チュラボーン高校(タイ)との連携協定

Skype communication・現地への教員訪問授業、生徒研究成果発表訪問実施

・出張理科実験教室「石巻出張科学教室～がんばろう東日本! 未来の科学者に～」実施
宮城県教育委員会主催 工学院大学連携プロジェクト

・23th.国際形態科学シンポジウム（国際学会）参加 ポスター特別賞受賞

・東京大学大学院教育学研究科「恒吉研究室」との連携によるグローバル教育の実践

・国際教養大学ドーティ博士の指導による英語教育能力開発プログラムの研究・開発

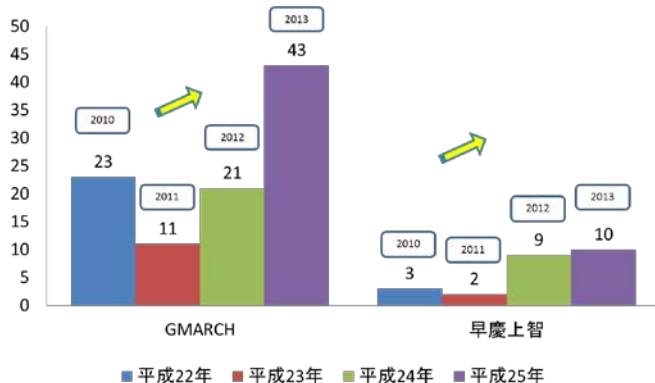
・他「遺伝子解析講座・実験講座」「再生医療の最前線!」「脊椎動物のからだ講座・比較解剖実習」「理系女子交流会」などに参加

○主なスポーツ、芸術活動

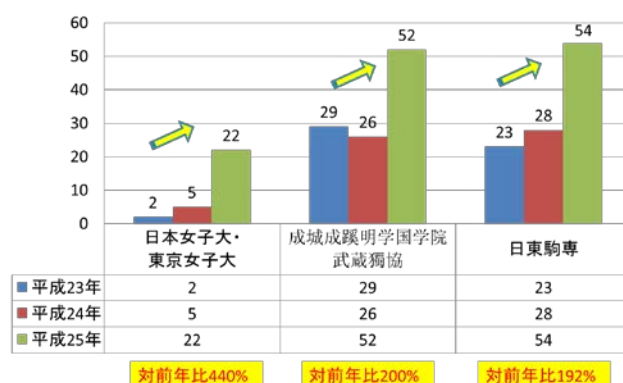
- ・高校バレーボール部インターハイベスト4、東京都新人大会「優勝」
- ・高校バレーボール部3選手、世界ユース女子バレーボール選手権大会出場活躍、国体少年女子に参加「優勝」
- ・高校ソフトテニス部関東大会初出場、活躍
- ・高校 吹奏楽部東京都アンサンブルコンテスト「金賞」
- ・高校 毎日新聞社主催国際高校生選抜書展「入選」
- ・中学バレーボール部全国大会出場、東京都新人大会「準優勝」
- ・中学新体操部関東大会進出活躍
- ・中学 本郷税務署主催「中学生の税についての作文」～「本郷間税会会長賞」

○主な進学実績

<GMARCH 早慶上智実績推移>



<女子大・有名私大実績推移>



○高大連携による文京学院大学への進学実績

平成24年 38名、平成25年 63名、平成26年 73名

これらの成果として、学園全体の教育力の向上、学園教育施設整備の大幅な改善、グローバル教育の推進、高校の大学進学実績向上、大学国家試験合格率向上、就職内定率改善、学生募集、ホームページ訪問者の拡大、等が特筆され、学園として、大学では、3P（アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）に即した運営がなされ、それがPDCAサイクル上でも適切な形で展開されており、また、中高校においても、少子化を背景とした厳しい募集環境下において、これまでの伝統を大切にしつつも「新しい中等女子教育のあり方」を意欲的に策定、実践するなど、平成25年度は、真に、教職員一丸となって取組んだ「創立90周年に向けた大きな第一歩の年」であったと同時に「創立100周年に繋がる年」でもあったと評価できるのではないかと思います。何よりも、年毎に成長する学生、生徒の姿が実に頼もしく、誇らしく、私どもの目に映ります。

上述いたしました取り組みと実績を更に具現化するため、以下、平成26年度の重点目標と事業計画についてご説明して参ります。

II. 平成26年度の主な事業計画

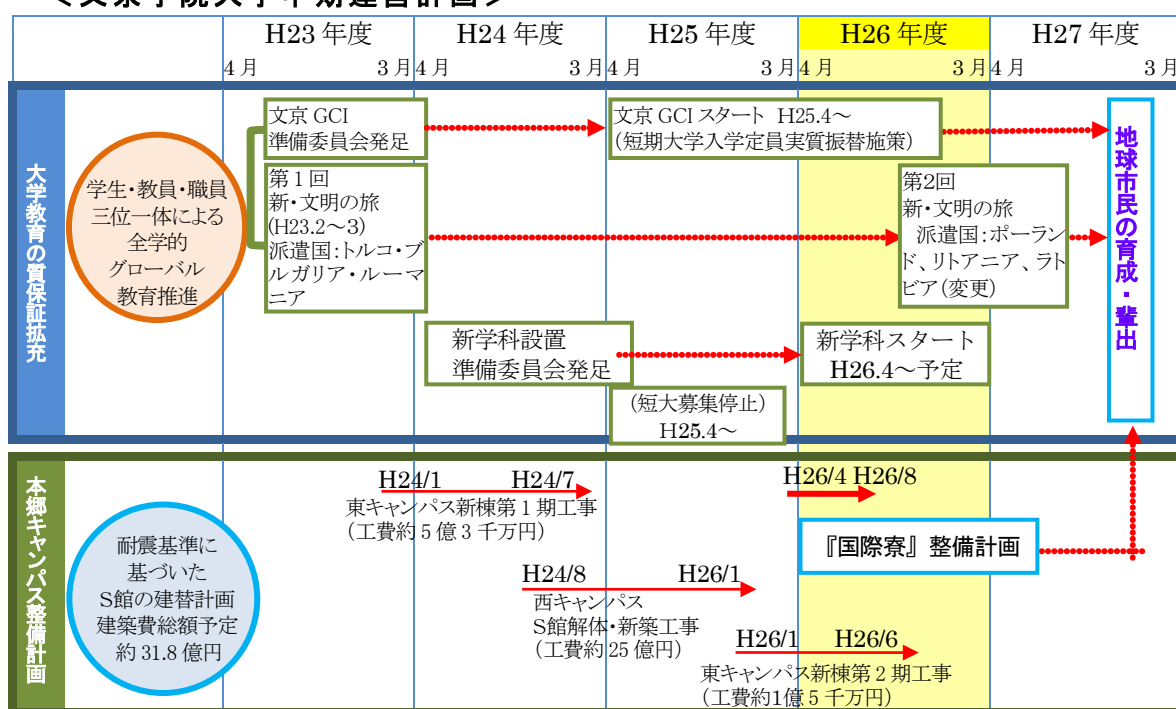
1. 平成26年度 重点目標

学園を取り巻く社会環境は、今年度も引続き変化の激しい不透明且つ厳しいものとなることを十分認識し、学園では、創立100周年（平成36年）を念頭において、『教育力日本一』を目指して以下の諸点を重点課題とし、全教職員が一丸となって鋭意取り組んで参る所存です。

◇重点課題1. 文京学院大学中期運営計画推進

- ・創立90周年記念整備事業として位置づけた本郷キャンパス整備事業の完遂
- ・大学教育の質保証拡充において、社会的ニーズに即した教育体制の整備とグローバル教育の強化、推進。～創立100周年をふまえた「大学事業構想」の検討スタート
- ・「国際寮」整備計画の策定に着手

<文京学院大学中期運営計画>



◇重点課題2. 「地球市民」の育成

学園の理念である「自立と共生」を基軸として、「新文明の旅」並びに「GCI 拡充」を中心に『グローバル教育』を強化推進することにより、「地球市民」を育成輩出する。

- ・GCI 設立2年目の学生募集状況は、定員75名に対し、入学予定者80名で、引続き順調に稼動中
- ・GCI 運営組織として、「国際交流・GSIセンター」を整備し、学生サポート体制の拡充を図る。
- ・海外交流提携校の拡充
- ・海外留学インターンシップ強化推進
- ・『国際寮』の立ち上げ

◇重点課題3. 新学科、保健医療技術学部看護学科の円滑スタート

- ・新学科初年度は、募集定員100名に対し、入学予定者100名でスタート～ふじみ野キャンパスにおいて、サポート体制強化

- ・看護並びに保健実習先との連携強化

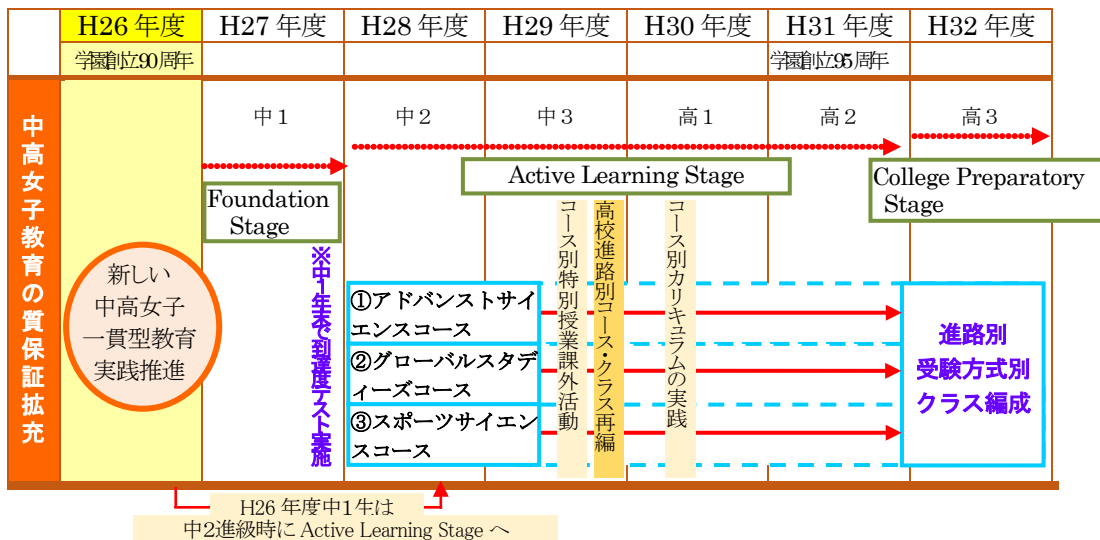
◇重点課題4. 中高の教育力強化

- ・厳しい募集環境をふまえ、「新しい女子中高一貫型教育の流れ」を策定済。これを段階的に推進。

新しい女子中高一貫型教育は、社会を考える・世界を学ぶ・英語を磨く・世界と繋がるをモチーフに、グローバル社会を担う基礎力を備えた女子輩出を目指す「ソーシャルデザインプラットフォーム」の構築と実践により行う。

- ・「理系教育～SSH（スーパーサイエンスハイスクール）」と「英語教育～国際塾」「スポーツサイエンス」の三本柱を基軸として、「新しい女子中高一貫型の特色ある教育力」をさらに強化推進する。
- ・大学進学実績の向上を図る。
- ・「新しい女子中高一貫型の特色ある教育力」を裏付けるための教育指導力強化
- ・「教員育成制度」の構築と導入

<新しい中高女子一貫型教育の流れ～計画案～>



◇重点課題5. 設置各校における教育力、研究指導力の拡充

- ・大学～・教育力、研究指導力向上を狙う大学紀要の改善検討
 - ・海外提携校との国際的共同研究の推進
 - ・大学院教育体制の見直し検討
- ・中高校～・「外部専門機関」との連携による研修を実施し総合的な教育力・授業力向上を図る。また、グローバル人材育成に資する教科指導の改革を実施
 - ・文京アクティブ・ラーニング・スタジオの多面的な活用
- ・文京幼稚園～・CLEC（子ども英語教育センター）と連携した「幼児英語教育」の実践
 - ・設立60周年行事の成功
- ・ふじみ野幼稚園・「こども園」構想をふまえたふじみ野幼稚園将来構想の検討

◇重点課題6. 『絆づくり推進委員会』の活動強化

- ・創立90周年記念整備事業における「寄付」募集活動継続強化
- ・「大学後援会」稼働～後援会設立総会開催予定（4月）

- ◇重点課題7. 「創立90周年記念式典・祝賀会」の成功～創立記念日10/23開催予定
- ・創立100周年を念頭においた「各設置校の事業構想」検討着手
 - ・創立90周年記念書籍『グローバルに学び、グローバルに生きる』の発行

- ◇重点課題8. 学園、各設置校間の連携強化
- ・大学における各研究教育センターと幼稚園との連携
 - ・SSHにおける連携をはじめとする高大連携強化

2. 施設・設備の整備関係

平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」によって本学の施設整備方針の変更と、本郷東キャンパスの用地取得など、本学を取りまく環境が大きく変化したために、平成23年度を初年度として本郷キャンパスの大規模建替を「創立90周年事業」として位置づけ、その実現に向けて邁進しております。

昨年度（平成25年度）は、新S館の建設・竣工並びに新S館に接続する、センタービル（C館）、D館、島田依史子記念館を現行建築法に適合させる既存適及工事及び、研究室、事務部門の再構成に伴う改修工事を実行いたしました。その結果、学生動線の一元化、新設される看護学科や、グローバル教育の拠点となるGSIフロアの施設整備が実現いたしました。また地下鉄南北線コンコースと仁愛ホールホワイエを直結し利便性を向上いたしました。

本郷東キャンパスにおいては、東本館の建設・整備に伴い文京幼稚園施設の大規模修繕及び移転と、臨床検査学科の実験実習施設を東本館に整備移転いたしました。これによって、本年度に既存実験実習棟を解体することで本郷キャンパスの耐震化が完了いたします。

本郷、ふじみ野両キャンパスの図書館内にラーニングコモンスの新設による教育環境の改善、駒込キャンパスを含め身障者トイレの整備や洋便化等を中心にキャンパスのバリアフリー化を推進いたしました。

ふじみ野キャンパスでは懸案であった大教室（講堂）の全面改修により、講堂としての機能向上と避難安全性の確保を実現いたしました。

昨年策定された「キャンパス整備基本デザイン（創立90～100周年に向けて）」に基づき、安全で教育環境の向上に邁進しているところです。

本年度は上記方針に基づき以下の施設整備を行ってまいります。

- (1) 90周年記念事業施設整備の総仕上げとしての本郷東キャンパスの臨床検査学科実験実習棟の解体と中庭の整備をいたします。これによって、臨床検査学科及び文京幼稚園の施設整備が完了いたします。
- (2) 本郷キャンパスではサロン・ド・ブンキョウ、歴史館の新設、新守衛所の建設など新S館に関係する未整備となっている施設整備を行います。
- (3) 教育のグローバル化対応としてGCIプログラムや文明の旅プロジェクトが軌道に乗りにつつありますが、増加が予想される留学生とその交流の活性化を図るために、「国際寮」整備計画を策定して参ります。
- (4) ふじみ野キャンパスでは施設の耐震化として西2号館、西3号館、ドームふじみ野の耐震設計を実施いたします。ふじみ野幼稚園体育館については本年度耐震安全性向上の工事を実施いたします。西2号館、西3号館、ドームふじみ野の耐震化工事は来年度に予定しますが、これが完了すると、全キャンパスの耐震化工事が完了いたします。

- (5) ふじみ野キャンパスの環境整備として屋外カフェテラスの整備、身障者トイレの整備、講義室の改修を実施いたします。
- (6) 建築設備の経年劣化が進んでおり、本年を初年度として優先順位をつけて順次修繕を実施いたします。

以上の整備計画の予算計上を行った結果、施設の総投資額として845百万円の設備投資、および施設・設備の整備事業を推進することとし、下記にその内容を示します。

□ 建設勘定工事・一般施設・設備の整備等

次の区分による一般施設・設備等の整備等事業を行います。

① 本郷キャンパス（90周年事業計画による施設整備事業）			
a.	東キャンパス建築関連工事	194 百万円	
b.	西キャンパス建築関連工事	82 百万円	
c.	東キャンパス整備費	1 百万円	小計 277 百万円
② 本郷キャンパス(東・西キャンパス)			
a.	守衛所新設工事	7 百万円	
b.	D館エレベーターホール階段更新工事	5 百万円	
c.	記念館・図書館トイレ改修工事	11 百万円	
d.	B館視聴覚設備更新工事	28 百万円	
e.	S館3階外国語教育活性化工事	17 百万円	
f.	B館マルチメディアラウンジ更新工事	5 百万円	
g.	看護学科備品整備費	11 百万円	
h.	臨床機器整備費	6 百万円	
i.	地下鉄連絡口整備諸経費	2 百万円	
j.	B'Dining 厨房機器工事	5 百万円	
k.	B'Café 家具工事	6 百万円	
l.	非恒常修繕費	25 百万円	小計 128 百万円
③ ふじみ野キャンパス			
a.	西3号館耐震設計費	5 百万円	
b.	西2号館耐震設計費	2 百万円	
c.	視聴覚設備更新工事	13 百万円	
d.	東館屋上防水更新工事	9 百万円	
e.	学食厨房機器更新工事	8 百万円	
f.	東館 E-103 人体標本室空調改修工事	3 百万円	
g.	東館3階図書館空調改修工事	7 百万円	
h.	西1号館3階研究室空調機更新工事	7 百万円	
i.	W310 講義室改修関連工事	17 百万円	

j.	西3号館障がい者トイレ増設工事	5百万円	
k.	西館3階研究室増設工事	4百万円	
l.	中庭屋外食堂増設工事	21百万円	
m.	学生会館1階周り改修工事	7百万円	
n.	施設改修に伴う家具工事	9百万円	
o.	非恒常修繕費	23百万円	小計 140百万円
④ 駒込キャンパス(中学校・高等学校)			
a.	第一体育館外部塗装工事	2百万円	
b.	一貫棟非恒常修繕費	8百万円	
c.	進学棟外部防錆工事	1百万円	
d.	進学棟非恒常修繕費	2百万円	小計 13百万円
⑤ 文京幼稚園			
a.	正門整備工事	11百万円	
b.	非恒常修繕費	1百万円	小計 12百万円
⑥ ふじみ野幼稚園			
a.	体育館耐震対策工事	4百万円	
b.	送迎バス更新費	5百万円	
c.	非恒常修繕費	2百万円	小計 11百万円
⑦ ドーム西片(学生寮)			
a.	全面改修工事	160百万円	
b.	家具什器整備費	22百万円	
c.	家電製品整備費	1百万円	
d.	非恒常修繕費	1百万円	小計 184百万円
⑧ ドーム本郷(学生寮)			
a.	A棟耐震設計費	4百万円	
b.	非恒常修繕費	1百万円	小計 5百万円
⑨ 軽井沢セミナーハウス			
a.	厨房機器部分修繕工事	2百万円	
b.	防雪工事	2百万円	
c.	内装工事	1百万円	
d.	非恒常修繕費	1百万円	小計 6百万円
⑩ 法人関連			
a.	駐車場整備工事および諸費用	5百万円	
b.	地上権買取費用および関連整備費	58百万円	
c.	事務用高額機器整備費	5百万円	
d.	天井等落下防止対策調査	1百万円	小計 69百万円

90周年事業計画による支出 計		277 百万円
一般施設・設備整備費用 計		568 百万円
合 計		845 百万円

3. 平成26年度予算編成

平成26年度は、各事業計画に基づき、事業間相互の調整を行いながら別添のと通りの予算編成作業を遂行しましたが、まず、昨年度に引き続き、学園の将来構想に直結する「本郷東・西キャンパス大規模整備事業」に伴う支出（277百万円）があること、他に本郷キャンパス各所改修工事を含めた整備工事（128百万円）、ふじみ野キャンパス中庭屋外食堂増設工事を含めた整備工事（140百万円）、駒込キャンパス整備工事（13百万円）、文京幼稚園整備工事（12百万円）、ふじみ野幼稚園整備工事（11百万円）、学生寮ドーム西片およびドームふじみ野改修整備工事（189百万円）、軽井沢セミナーハウス関連工事（6百万円）、法人用途土地整備工事を含む法人部門費用（69百万円）などの支出があり、単年度では約11億4千4百万円の消費支出超過予算を編成することとなりました。

学園としては、今後の厳しい競争環境に耐え、限られた財源をより効果的に活用できるよう予算執行の段階でも肌理細かな管理、工夫を重ねて参ります。

4. 法人運営関係

[財政関係指標]

- ① 現行の収容定員規模及びこれを支える教員・事務組織を維持し、運営上の収支均衡を図ります。とくに、経常収支の根幹である「学生・生徒等納付金」と「人件費」のバランスに留意し、適正と判断される比率の確保を目指します。

	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度計画
人件費比率 (対帰属収入比率)	56.8%	57.2%	58.6%
人件費依存率 (対学生生徒等納付金比率)	71.7%	73.4%	72.2%

- ② 教育研究に必要な一定の経費を投下し、収入との均衡を図りつつ教育環境の維持改善を図ります。

	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度計画
教育研究比率 (教育研究費/帰属収入)	30.8%	29.8%	33.3%

- ③ 管理経費

部門別予算の見直し等により、極力管理経費の抑制に努めます。

	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度計画
管理経費/帰属収入	10.8%	11.5%	12.4%

[役員および監事の氏名及び役職名]

(平成26年6月1日)

役職	職名・担当職務	氏名	現職
理事	理事長	島田 燐子	学園長、文京学院大学教授
理事	大学担当	川邊 信雄	文京学院大学学長、文京学院大学教授
理事	副理事長・財務担当	島田 昌和	文京学院大学教授 文京学院大学女子高等学校・中学校学事顧問
理事	大学教学担当	櫻山 義夫	文京学院大学副学長、文京学院大学教授
理事	中学校高等学校担当	佐藤 芳孝	文京学院大学女子中学校校長 文京学院大学女子高等学校校長
理事	法人事務局担当	吉田 雅敏	学校法人文京学園法人事務局長
理事	大学担当	小野 恵市	文京学院大学統括ディレクター
理事	ふじみ野キャンパス 大学事務局担当	竹内 秀和	文京学院大学ふじみ野キャンパスディレクター
理事	(外部)	伊東 晋	伊東晋編集事務所主宰
監事		清水 秀樹	特定非営利法人教職員学校理事長
監事		煙山 力	

以上

II 設置学校の状況

1. 設置する学校・学部・学科等の入学定員及び学生数の状況

平成26年5月1日

名 称	入学 定員	26年度入学者数 (男子)	収容 定員	学生生徒 在籍者数
文京学院大学	人	人	人	人
大 学 院 経営学研究科	30	24 (17)	60	49
大 学 院 人間学研究科	30	16 (6)	60	31
大 学 院 外国語学研究科	10	3 (1)	20	12
大 学 院 保健医療科学研究科	20	23 (16)	40	46
経 営 学 部 経営学科	235	265 (118)	900	1,043
人 間 学 部 コミュニケーション社会学科	60	51 (30)	240	235
児童発達学科	130	136 (26)	520	541
人間福祉学科	110	85 (26)	440	401
心理学科	100	108 (43)	370	390
外 国 語 学 部 英語コミュニケーション学科	240	254 (55)	880	1,005
保健医療技術学部 理学療法学科	80	86 (34)	320	342
作業療法学科	40	43 (11)	160	169
臨床検査学科	80	86 (15)	320	358
看護学科	100	105 (10)	100	105
大 学 計	1,265	1,285 (408)	4,430	4,727
文京学院大学女子高等学校	325	332 —	975	933
文京学院大学女子中学校	150	122 —	450	345
文京学院大学文京幼稚園	60	67 (31)	180	188
文京学院大学ふじみ野幼稚園	100	107 (50)	360	302
合 計	1,900	1,913 (489)	6,395	6,495

2. 設置する学校・学部・学科等の教職員数の状況

(1) 大学教員

[専任基準] (平成26年5月1日)

学部等	教授	准教授	助教	助手	専任教員 合計 (前年比)	有期契約 教員
文京学院大学 経営学部	17	4	—	—	21(0)	(3)
人間学部	32	16	9	3	60(0)	(24)
外国語学部	14	8	5	—	27(6)	(10)
保健医療技術学部	21	13	13	20	67(20)	(46)
経営学研究科	3	—	—	—	3(0)	(3)
人間学研究科	(人間学部と兼任)					
外国語学研究科	(外国語学部と兼任)					
保健医療科学研究科	(保健医療技術学部と兼任)					
合計	87	41	27	23	178(25)	(86)

(注) 短期大学よりの転籍者9名を含む

(2) 高等学校・中学校等、幼稚園教員

[専任基準] (平成26年5月1日)

設置校名	専任教諭	合計 (前年比)	有期契約 教員
文京学院大学女子高等学校	51	51 (▲4)	(5)
文京学院大学女子中学校	20	20 (▲3)	(2)
文京学院大学文京幼稚園	13	13 (▲1)	(4)
文京学院大学ふじみ野幼稚園	19	19 (▲2)	(9)
合計	103	103 (▲10)	(20)

(3) 職員

[専任基準] (平成26年5月1日)

設置校等	専任	常勤嘱託等	合計 (前年比)	有期契約 職員
文京学院大学	120	3	123 (6)	(45)
文京学院大学女子高等学校	12	1	13 (1)	(4)
文京学院大学女子中学校	(高等学校と兼任)			
文京学院大学文京幼稚園	1	—	1 (0)	(0)
文京学院大学ふじみ野幼稚園	1	—	1 (0)	(1)
学校法人文京学園	24	3	27 (▲3)	(5)
合計	158	7	165 (4)	(55)

Ⅲ 平成26年度収支予算

資金収支予算書(要約)

平成26年4月 1日から

平成27年3月31日まで

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
学生生徒等納付金収入	6,896,200	人件費支出	4,911,770
手数料収入	145,850	教育研究経費支出	1,830,730
寄付金収入	37,510	管理経費支出	944,770
補助金収入	1,081,800	借入金等返済支出	1,000
資産運用収入	84,140	施設関係支出	506,650
事業収入	139,360	設備関係支出	293,740
雑収入	113,844	資産運用支出	435,000
借入金等収入	1,000	その他の支出	1,544,652
前受金収入	1,378,120	予 備 費	50,000
その他の収入	634,953	資金支出調整勘定	△ 401,194
資金収入調整勘定	△ 1,498,668	次年度繰越支払資金	3,298,087
前年度繰越支払資金	4,401,097		
収入の部合計	13,415,205	支出の部合計	13,415,205

消費収支予算書(要約)

平成26年4月 1日から

平成27年3月31日まで

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
学生生徒等納付金	6,896,200	人 件 費	4,980,870
手 数 料	145,850	教育研究経費	2,833,380
寄 付 金	42,580	管 理 経 費	1,056,780
補 助 金	1,081,800	資産処分差額	125,030
資産運用収入	69,140	予 備 費	50,000
事業収入	139,360		
雑収入	123,804		
帰属収入合計	8,498,734		
基本金組入額合計	△ 596,230		
消費収入の部合計	7,902,504	消費支出の部合計	9,046,060
		当年度消費支出超過額	1,143,556
		前年度繰越消費支出超過額	5,877,463
		翌年度繰越消費支出超過額	7,021,019